

龍田の文化財めぐり

1. 楽々山円勝寺跡

円勝寺は、行基が開いたといわれる古いお寺です。兵火などによって戦国時代には荒廃していましたが、天文10年(1541)に斑鳩寺が全焼した後、この寺の僧たちが斑鳩寺の再建に尽力しました。現在、斑鳩寺にある国重要文化財の日光・月光菩薩や十二神将は、このお寺から移されたものです。

4. 願成寺 臨済宗妙心寺派

神亀年中(724～729)、行基の弟子の澄光上人が開いた、観音信仰の寺です。七堂伽藍をほこる大寺で、「鵜荘絵図」にも松尾寺として描かれていますが、しばしば兵火にかかり、小さな観音堂だけになってしまいました。江戸時代になり、それを、松尾村の西祐が再興したのが今の願成寺です。
元は八幡神社の場所にありましたが、昭和5年(1930)に今の場所に移りました。

14. 照雲寺

室町時代中頃、楯岩城主だった赤松満祐の四男刑部少輔範資は、嘉吉の乱(嘉吉元年・1441)で戦死しました。その時、家臣の戸磨弥四郎重信も戦死しましたが、幼かった重信の子・与四郎義次は広坂にのがれ、村人に育てられました。やがて成長すると亡父の菩提を弔うために出家し、そして永正13年(1516)、一堂を建立しました。それが当寺のはじまりと伝えられています。

15. 栗丘神社

今から800年あまり昔、源氏の武将・熊谷直実は、源平の合戦の後、武士をやめて仏門に入り、法然上人の弟子になりました。そのとき、播磨にいた直実の弟・佐平太清高も武士をやめて、広坂に住みつき、太市郷西脇村の玉田氏と共にこのあたりを開発したといわれています。その熊谷氏5代をお祀りした神社です。

16. 破磐神社の「割れ岩」

昔、神功皇后は、新羅出兵に先立ち、姫路の東部、麻生山から3本の矢を射ました。1本目は辻井へ、2本目は青山へ飛び、最後の矢は太市の大岩に当たり、大岩を三つに割りました。それがこの割れ岩です。皇后はこれを吉兆とし、ご神体としてお祀りしたのが破磐神社です。町内では、広坂と鵜飼が破磐神社の氏子です。

2. 男明神・女明神

この山に、出雲の御陰の大神様がいました。まずヒコ神様(男明神)が来ました。しかし、後からヒメ神様(女明神)が来る前に立ち去ってしまったので、ヒメ神様が怒り、ここを通る旅人の半分を殺してしまうようになりました。それを大阪の枚方(ひらかた)からやって来た漢人(渡来人)たちがお祀りして、ようやく心をなごませ、しずまられたとか。『播磨国風土記』に書かれています。
枚方からやってきた漢人たちが住みつきましたので、このあたりを「ひらかた」と呼ぶようになりました。

◎ 松尾太夫・桑原貞助

桑原氏は、平安時代後期以降、鵜荘や弘山荘を拠点に、この地域を開発した一族で、国衙の役人であるとともに、鵜荘の下司を勤めていました。松尾を拠点にした貞助は、保延4年(1138)正月23日、松尾寺で、大般若経全600巻を1日で写経する大事業を行いました。そこには、斑鳩寺・書写山はじめ多くの寺院からたくさんの僧侶が集まり、活気にあふれていた様子がうかがえます。

12. 広坂のお地藏さん

昔、ここから3kmあまり北東にあった峯相山鷄足寺のハツ地藏の一つをお迎えしてきたものといわれています。また、広坂を開いた熊谷佐平太清高の7人の重臣を祀ったものともいわれています。
8月23日の地藏盆には、子供たちがお堂の前に五輪塔の石を並べ、お花をお供えしてお参ります。

13. 広坂大歳神社

広坂の荒神さんで、大歳神をお祀りしています。この村をひらいた熊谷直実の弟・佐平太清高が建てたものとか。また、聖徳太子が斑鳩寺の鬼門除けにつくった8つの神社の一つともいわれています。

3. オバサの峠とキツネ

ここを通る水路・マツオミゾは、峠を掘り抜いて作られた人工の溝です。この溝ができて、松尾の村の南で田んぼを作ることができるようになりました。溝を作ったのは渡来人で、この溝を管理するために八軒屋の村がつくられたともいわれています。
このオバサの峠にはキツネがいて、よく人をだましていたとか。ほかに、坊主山・カラ川・北之町などにキツネがいて、特に坊主山のキツネは、たてじまの着物を着た、たいそう美人に化けるそう。

5. 桜ヶ坪のぼう示石

聖徳太子が鵜荘の境を示すために置いたという「ぼう示石」。その場所は、法隆寺にある鎌倉時代の絵図に「●」で記されています。その絵図に記された場所に残る唯一の石。でも残念ながら、この石には聖徳太子が投げたという伝説はありません。

6. 筑紫大道

鎌倉時代、当時中国を支配していた元(げん)という国が日本へ攻めてきました(文永11年・1274)。その時は何とか追い払いましたが、再び攻めてきた時のために、九州と鎌倉の間の道路を整備しました。その道、いわば鎌倉時代の高速道路が「筑紫大道」です。
その後、弘安4年(1281)に、元が再び九州に攻めてきましたが、その時には、この道をたくさんの人馬が駆け抜けていったことでしょう。

7. 平方の太歳神社(ださいさん)

太歳神は陰陽道の八將軍の一人で、木星の精として万物の生成を司る吉神です。斑鳩寺の鬼門(北東方向)を守るために祀られた神社でしょう。戦国時代には、法隆寺からやってきた鵜荘政所の僧が必ず初詣に来る、大事な神社でした。
江戸時代には、用明天皇を祀るといわれていました。

8. 平方の投げ石

聖徳太子が鵜荘の境を示すために置いた「ぼう示石」といわれる石。ここは荘園の境界ではありませんが、太子の投げ石と呼ばれ、大切に守られてきました。ぼう示石の中でも一番有名な石で、兵庫県指定文化財。

9. 奉行所定め石

江戸時代後期の享和3年(1803)、東山(松田山)の利用をめぐって、平方・松田・柳の間で争いが起こりました。そこで、翌文化元年(1804)、今後めめることがないようにと、大坂町奉行所が境界を定めて埋めた12本の境石の一つです。

11. 松ヶ下の投げ石

聖徳太子が鵜荘の境を示すために置いた「ぼう示石」といわれる石。太子の投げ石と呼ばれ大切に守られてきました。江戸時代の中ごろの絵図にも、「太子なげ岩」として、描かれています。

20. 楯岩城跡(太田城跡)

大岩が楯のように並ぶことから楯岩城といわれる太田城は、揖保郡と飾磨郡の境で山陽道(西国街道)を押さえる重要な位置にあります。江戸時代の地誌『播磨鑑』によると、最初の城主は南北朝の頃の赤松刑部少輔(広岡氏の祖)で、その後、天正年中(1573～92)まで栄えました。永正18年(1521)の播磨国守護・赤松義村と守護代・浦上村宗の争いでは、太田城を中心に、最前線での緊迫した様子が『鵜庄引付』に記されています。その後、羽柴秀吉が播磨国を治めるようになって(天正8年・1580)廃城になりました。

10. 松田のお地藏さん

江戸時代後期の弘化3年(1846)4月に建てられたお地藏さん。かつては子供たちが前の水路でよく遊んでいましたが、そこでおぼれた子供の供養のためとか、松田は神社がないのでお地藏さんを作ったのだとかいいます。
以前は、地藏盆の8月23・24日に、子どもたちが集まって相撲を取っていました。

19. 若王子神社

上太田と松ヶ下の氏神で、仁徳天皇をお祀りしています。昔は上太田の村の中にありましたが、ある時、村内で大火事があり、神さまの御幣が空に飛んで今ある宮ノ谷へ行き、難を避けられました。それ以来、ここでお祀りするようになりました。
また、以前は、十一面観音を一緒にお祀りしていましたが、明治のはじめに神仏分離を命じられ、観音様は願念寺にお遷ししてお祀りされています。
明治11年(1878)4月に奉納された西南戦争(前年10月に終わったばかり)を描いた絵馬など、興味深い絵馬がたくさんかけられています。



10. 松田のお地藏さん

17. 鵜飼のお地藏さん

むかし、広坂の南あたり一帯は大きな沼だったそう。そこに鵜をつかって、魚を捕るおじいさんがいたのだとか。それで、鵜飼という地名になったのだとか。
このお地藏さんは、そのおじいさんがお祀りしていたものとか、おじいさんのお墓とかいわれています。

18. 王子神社

彦寤真命(ひこごまのみこと)をお祀りしています。幣殿の中には、明治のはじめ、旧赤穂藩士が行った最後の仇討ち・「高野の仇討ち」を描いた絵馬があります。